

厚生労働省科学研究費補助金（地球規模保健課題解決推進のための行政施策に関する研究事業）
分担研究報告書

Working Group 4: 公的医療保険制度を有する国における平時の公衆衛生システムと緊急時対応
をつなぐ財政フレームワーク：スコーピングレビュー・プロトコール

研究分担者 本田 文子 一橋大学経済学研究科・社会科学高等研究院

研究要旨 WHO、OECD、世界銀行等の国際機関文献を対象に迅速レビューを実施し、健康危機下における公共財政管理に関する研究課題を検討した。その結果、「公衆衛生と緊急対応のレジリエンスを高める財政メカニズム」をテーマに、公的医療保険制度を有する国を対象としたスコーピングレビューの研究プロトコールを作成した。本研究では、平時の保健医療財政と緊急時対応財政を接続する制度・資金配分・ガバナンス構造を整理し、健康危機へのレジリエンス強化に向けた知見創出を目指す。2026 年度にレビューを実施予定である。

健康危機と公共財政管理をテーマに新たな知見を創出する研究課題を特定するため、世界保健機関（WHO）、経済協力開発機構（OECD）、世界銀行（World Bank）などの国際機関が公表する関連文献について迅速レビューを実施した。その結果を踏まえ、「公衆衛生と緊急対応のレジリエンスを高める財政メカニズム」を主要な研究課題として設定し、以下に紹介するスコーピングレビューの研究プロトコールを作成した。

感染症や自然災害への対応における財源調達および資金配分の仕組みに関する研究は、コロナ禍を契機として国際的に関心が高まっている領域である。特に、平時の保健医療財政と緊急時対応財政をいかに制度的に接続するかは、健康危機へのレジリエンス強化の観点から重要な政策課題となっている。

2026 年度は、本プロトコールに基づきスコーピングレビューを実施する予定である。

A. 背景

ヘルスシステムは、安定的かつ持続可能な財政基盤に支えられることで、予防・医療・保健サービスを継続的に提供している。多くの

国では、税財源や社会保険方式などを通じて、平時の医療・公衆衛生サービスの財政が制度的に確立されている。

一方で、パンデミック、自然災害、紛争など緊急事態（健康危機）においては、迅速な資金動員、柔軟な予算執行、追加的財源の確保が必要となる。このような緊急対応では、既存の財政枠組みとは異なる仕組みが求められることが多い。

特に、公的医療保険制度を有する国では、既存のプールされた資金や制度的枠組みを活用することで、緊急時対応を強化できる可能性がある。しかし、平時の保健医療財政と緊急時対応財政をどのように繋ぎ、統合的に運用しているのかについては、体系的な整理が十分ではない。

本テーマにおける財政ガバナンス、資金配分メカニズム、制度的連携構造を整理することは、健康危機へのレジリエンス強化の観点から重要である。

B. 目的

本スコーピングレビューの目的は、公的医療保険制度を有する国において、平時の医療

提供体制と緊急時対応を結びつける財政フレームワークの構造を検証することである。

具体的には以下を明らかにする：

- 1 公的医療保険制度を有する国における、平時の保健医療財政と緊急時対応財政を接続する財政フレームワークの類型と構造
- 2 平時と有事の財政の統合・連携・調整を可能にする資金配分メカニズム、ガバナンス構造、運用手続き
- 3 既存研究及び政策文書における知識ギャップの特定と、今後の研究・政策への示唆

C. 対象文献

本レビューは PCC (Population-Concept-Context) フレームワークに基づき、以下の基準に従って文献を選定する。

対象 (Context)：公的医療保険制度（社会保険方式または強制加入型保険制度）を有する国とする。

概念 (Concept)：平時の保健医療財政と緊急時対応財政を接続する仕組みとし、具体的には資金プール、緊急基金、予算移転、財政調整メカニズム、保険財政の緊急活用制度などを含むものとする。

文献の種類：本レビューで対象とする文献は以下の通りとする。

- 査読付き学術論文
- 政府報告書
- 国際機関報告書（WHO、世界銀行、OECD を含む）
- 政策文書および技術報告書

除外基準：以下に該当する文献は除外する。

- 公的医療保険制度を有しない国を対象とした研究
- 財政的側面を扱わない臨床研究およびサービス提供に関する研究
- 理論モデルの提示にとどまり、政策的含意が限定的な研究
- 論説、意見論文等の非実証的文献

D. 手法

研究デザイン

本研究はスコーピングレビューであり、Joanna Briggs Institute (JBI) の方法論および PRISMA-ScR ガイドラインに準拠する。以下の 5 段階で実施する：

- 1 研究質問の明確化
- 2 関連文献の特定
- 3 文献選定
- 4 データの整理 (charting)
- 5 結果の統合・提示

情報源および検索戦略

以下のデータベースを用いる：

- Embase
- MEDLINE
- Web of Science
- Scopus

検索語は次の概念を組み合わせ構築する：

- 強制医療保険 (social health insurance / mandatory health insurance)
- 医療・公衆衛生財政 (health financing / pooled funds / insurance funds)
- 緊急時対応 (emergency preparedness / disaster response / epidemic financing)
- 財政統合・調整 (integration / coordination / fiscal transfer)

さらに、参考文献リストおよび国際機関報告書のハンドサーチも実施する。

文献選定プロセス

すべての検索結果は文献管理ソフト (EndNote) に取り込み、重複を除去した上で、スクリーニングおよび選定プロセスには専用のシステムである Covidence を使用する。

文献選定は以下の手順で実施する。

- 1 タイトルおよび抄録のスクリーニング
- 2 全文の適格性評価

これらのプロセスは2名の独立したレビューアーにより実施し、不一致が生じた場合は協議、または第三者の判断により解決する。文献選定の全過程は、PRISMA-ScRに準拠したフローチャートとして可視化する。

データ抽出

標準化されたデータ抽出フォームを作成し、パイロットテストを実施する。抽出項目は以下を含む：

- 国・制度の特徴
- 医療保険制度のタイプ
- 平時の公衆衛生財政構造
- 緊急時財政メカニズム
- 資金の流れ（プール、移転、予算配分）
- 緊急資金の発動条件
- ガバナンス構造（中央・地方・保険者の役割）
- 平時と有事の統合度
- 課題と促進要因

データ抽出は2名で独立して実施し、一致しない場合は協議する。

データ統合・分析方法

分析は記述的およびテーマ別統合により行う。結果は以下の形で整理する：

- 財政フレームワークの類型化

- 平時・緊急時財政の連結メカニズムの整理
 - 国別比較表の作成
 - 財政統合モデルの概念図作成
- 更に、繰り返し出現するガバナンス構造や資金フローの特徴についてテーマ分析を行う。

E. 期待される成果

本レビューにより次の点が明らかになることが期待される：

- 平時と緊急時の財政を接続するフレームワークの類型化
- 国際比較可能な財政統合メカニズムの整理
- 財政ガバナンスと資金フローを可視化した概念モデル
- 研究上の知識ギャップの特定
- 政策形成に資する示唆（レジリエントな財政設計）

F. 研究発表

研究成果は論文としてまとめ、保健医療政策系の国際ジャーナルに投稿・発表の予定である。

G. 知的財産権の出願・登録状況：特になし。